

第 23 回富士山世界文化遺産学術委員会における主な意見 (11 月 12 日開催)

(報告 1) 今夏の富士山の状況

- ・避難救助の数字は通年の数字か。また開山期間以外に遭難者が発生しているのか。
- ・山梨県で今夏から導入した規制において、保全協力金や入山料の協力率、人数を詳しく教えてほしい。
- ・登山者数のカウント場所について説明がほしい。

(報告 2) 来訪者管理計画の見直しの進捗状況

(特に意見なし)

(報告 3) 富士山包括的保存管理計画の改定

- ・包括的保存管理計画が上位計画。管理計画を見れば大凡の富士山の状況が把握できるはず。今は関係自治体が矢継ぎ早に新しい対策を取っており、富士山全体としてはどうなっているのか見えづらい状況。
- ・富士山規制状況が過渡期であるため、包括的保存管理計画及び来訪者管理計画を最小限の改訂とするのは理解できる。
- ・管理計画をもって初めて富士山管理の全体的な方向性を示す指針が出来たが、近年計画が現状に追いつかなくなっている。

(報告 4) 今後の入山管理対策の方向性

- ・通行料と協力金は、それぞれ使用用途は使い分けているか。また人件費には充当されているのか。
- ・今夏の山梨県の規制は 4000 人上限と通行料 2000 円であるが、4,000 人/日の上限を設ける規制は効果があったのか。
- ・山梨県の令和 6 年度弾丸登山者 708 人はどういう人たちなのか。

(報告 5) 「富士山登山鉄道構想」の進捗状況

- ・HIA の結果を報告する段階にないとの説明だが、適切な段階で適宜 HIA を行い、その結果を報告してほしい。
- ・基本的に LRT のイメージは、現在の自動車道を最大限利用するという前提と理解している。
- ・令和 6 年度の地元との意見交換ではどのような意見が出たか。

(議事 1) 経過観察指標に係る年次報告書 (案)

- ・文化財届出件数の⑤富士山域「古銭を回収し保管」については、詳細を確認し掲載の是非を検討してほしい。